実務選択コース　１学年通信

七 転 八 起

一年の計は元旦にあり

訳：１年間の計画は年の初めの元日に立てるべきである。物事にとりかかる時は、始めにしっかりとした計画をもって当たれという意味。

第 10 号
2020 年 1 月 8 日発行

新年あけましておめでとうございます。大晦日には行く年を振り返り、元日には新しい年の幕開けに胸躍らせたことでしょう。今年は２月の職場見学にはじまり、４月から新年度を迎え、クラス替えや待ちに待った選択講座の開始、８月のインターンシップ、１１月の修学旅行など皆さんを成長させてくれる行事がたくさん控えています。２０２０年が皆さんにとって飛躍の年であること願っています。

職場見学に向けて

２月３日（月）～７日（金）の期間に職場見学が開催されます。今回の見学は、それぞれが関心のある業種・職種の職場にお邪魔し、社内の見学や、そこで働いている方々への質疑応答などを通して、「実社会を知る・実社会に触れる」という目標を設定しました。

１学年の生徒ほぼ全員参加を希望しておりますが、今月は LHR や総合的な学習の時間の中で各担当の先生方からの事前指導が行われます。学外の方々にお世話になる行事ですから、入念な準備が必要になります。

お忙しい中、皆さんのために時間を割いてくださる職場の方々への感謝の気持ちを忘れず、またとないこの機会を最大限に活かせるよう、しっかりと事前準備に取り組んでください。

交通ルール守っていますか？

自転車に乗ることの多い高校生だからこそ、日々交通ルールを遵守しなければなりません。「二人乗り」、「一時不停止」、「信号無視」、「並列走行」、「傘さし運転」、携帯電話等を操作しながら、イヤホンで音楽を聴きながらの「ながら運転」、「無灯火」などの行為を皆さんはしていませんか。

これからの季節は，道路が凍結することがあります。凍結路面では自動車のブレーキがなかなかきかず、停止距離が長くなります。自転車も同様にすぐには止めることができません。スピードを出しすぎていたり、正しくない姿勢で乗っていたり、よそ見をしたりしているとブレーキが遅れて事故につながってしまうケースも考えられます。

自転車に乗るときはルールを守り、運転に集中しましょう。携帯機器などを操作しながら運転していると前方への注意が疎かになるので絶対にしないようにしましょう。さらに、時間に余裕をもって行動しましょう。

インフルエンザ、ノロウイルス注意

冬の時期になると、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が流行ってきます。その予防の基本は手洗いとうがいです。外出後とトイレ後、そして食事前には必ず手洗いとうがいを行うことで、予防になります。まずは手洗い、うがいを習慣化させましょう。もし、体調がすぐれないときは、早めに医療機関を受診し、医師の指示に従います。また、感染してしまった場合には、感染拡大を防ぐために、医師の指示があるまでは登校を避け、投薬しながら、自宅で静養してください。

今後の予定

日付	予定
１月　８日（水）	全校集会・一斉指導・大掃除等
９日（木）、10 日（金）	本校入試（生徒は自宅学習）
11 日（土）	基礎力診断テスト（全員受験）
14 日（火）	通常授業開始
２月　３日（月）～７日（金）	職場見学
８日（土）	実力診断テスト（希望者）

保護者の皆様へ

保護者の皆様、新年あけましておめでとうございます。先月は三者面談のために、お忙しいところ、来校くださいまして、誠にありがとうございました。面談は生徒の進路と次年度から始まる選択科目の内容が中心となりました。選択科目につきましては今後、多学年との調整に入りますが、教室等の都合により、第１希望を変更していただく方も出てくるかもしれませんが、その際には、生徒を通して相談させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、冬休みが明けたばかりですが、９日（木）、１０日（金）は本校入試のため、自宅学習となり、その後も３連休がございますので、冬休みに続き、ご家庭でのご指導をお願いいたします。

１学年も残り３か月となりましたが、今後も学年の教員が一丸となって指導してまいりますので、よろしくお願いいたします。

TKP コラム　Vol. 13

「お・も・て・な・し」

学年主任　末松孝治

2013 年９月、アルゼンチン・ブエノスアイレスで 2020 年夏季オリンピックの開催地を決める国際オリンピック委員会の総会が行われ、東京がプレゼンテーションを行いました。その中で滝川クリステルさんが流暢なフランス語で「お・も・て・な・し」の心をアピールし、東京招致を訴えてから、６年余りが過ぎ、いよいよ２０２０年の東京オリンピックの年を迎えました。

「おもてなし」という言葉は、「お」と「もてなし」に分かれます。「おもてなし」という言葉は「もてなし」に「お」をつけた丁寧語です。

「もてなし」の動詞形は「もてなす（持て成す）」といい、「モノを持って成し遂げる」がその語源とのことです。これは、平安・室町時代に発祥した茶の湯から始まったと言われ、客人や大切な人への気遣いや心配りをする心が築かれた世界に誇る日本の文化と言えます。

語源の「モノ」には２種類の意味があります。それは、目に見える「モノ」と、目に見えない「コト」です。この「モノ」と「コト」を茶道の世界で例えると、お客様をおもてなしする際の季節感のある生花、掛け軸、絵、茶器、匂い(御香)など具体的に身体に感じ、目に見えるものを「モノ」と言い、瞬時に消えてしまう言葉、表情、仕草など、目に見えない心を「コト」と言います。

さて、おもてなしと言えば、戦国最強と謳われた武将のひとり蒲生氏郷（がもううじさと）が浮かんできます。蒲生氏郷公は、会津地方の人なら誰もが認める会津の偉人です。会津の象徴である若松城、城下町、酒造や漆器そして茶道。その全てを作ったのは蒲生氏郷公であり、彼なくして今の会津はあり得なかったと言っても過言ではありません。

蒲生氏郷は、人質として織田信長に預けられるも、その類いまれなる才気を買われて信長が次女の冬姫を嫁がせたほどの武将です。大名として着々と躍進しますが、大変、家臣思いの主君であったことでも知られています。

当時の大名にとって、優秀な武将を召し抱え、その働きに応じて恩賞を与えることは重要なことでしたが、氏郷がまだ若く、充分な恩賞を与えることができなかった時代に、戦場などで功績のあった家臣を屋敷に招いて、酒肴のもてなしをしたと言われています。

さらに、蒸し風呂が主流だったその時代に、お湯をはった風呂に入ることは贅沢なことで、最上のもてなしとされましたが、招かれた家臣は、風呂を勧められ喜んで入ると、外から湯加減を聞く声に驚きます。

なんと、主君の氏郷が自ら薪をくべて風呂を焚いていたのです。家臣の驚きと感激は大変なものだったようです。

この氏郷の「蒲生風呂」の話は家中に広まり、家臣達は、いつか自分も入れるようになりたいと懸命に奉公に励むようになったといわれます。

「家臣の働きに報いたい、家臣を労わりたい」という氏郷の思いが伝わり、蒲生家家中では蒲生風呂が、かけがえのない恩賞となったとともに、これが蒲生軍の強さの秘密でもありました。

会津若松城のことを「鶴ヶ城」と呼びます。鶴ヶ城の由来は氏郷の幼名が「鶴千代」であり、蒲生氏の家紋に「鶴」が入っていることから、そう呼ばれるようになりました。

氏郷が亡くなって４００年以上経つ今でも、氏郷の功績は色あせることなく、次世代へと受け継がれています。

そんな、私たち日本人が時代を超えて残してきたモノ、受け継いできたコトは、〝おもてなしの心〟だったのではないでしょうか。しかし、今年はそれが本当の意味で問われる年なのかもしれません。

皆さんにとって２０２０年は「どんなモノ・コトを持って」「何を成し遂げる」１年にしたいですか？

TKP コラム　Vol. 14

「七転八起」

学年主任　末松孝治

新しい年を迎え、心も新たに初詣に訪れた方も多いのではないでしょうか。お正月には、多くの縁起物を目にする機会が増えます。新年に「年神様を迎える時の目印」とされている『門松』。年神様を迎えるための飾りで、家の中が「年神様を迎えるために清められた場所」であることを示す『しめ飾り』。「年神様が宿る場所」とされている『鏡餅』。さらに、社寺の境内などでは、『だるま』や『熊手』、『招き猫』が参詣人に販売されています。

さて、福島県会津地方を代表する縁起物と言えば、『起き上がり小法師（おきあがりこぼし）』です。基本構造はだるまと同じで、本体中心下部におもりを入れる事により「何度、倒しても起き上がる」ところから、粘り強さと健康のシンボルとして縁起がいいとされています。

また、その歴史は古く、今をさかのぼること実に 400 年以上も昔、当時の会津藩主で皆さんもご存じの**蒲生氏郷公**が正月に作らせたのが始まりと言われています。

会津地方ではこの小法師を「十日市」という毎年 1 月 10 日に行なわれる初市の縁日で家族の人数分＋１個を購入します。家族の人数より一つ多く買うのは、「家族や財産が増えるように」という願掛けと、無病息災、家内安全のための身代わり的な意味合いからです。

その『起き上がり小法師』が 2011 年の東日本大震災からの復興応援の一つとして、祖国日本を離れフランスで活躍している日本人デザイナーの高田賢三さんの発案で、世界のアーティストによる『起き上り小法師』の絵付けプロジェクトが開始されました。

この「おきあがりこぼし・プロジェクト」は、伝統的な会津の職人さん手作りの無地の張り子（小法師）に、一日も早い震災からの復興を願ってくださっている日本ゆかりのフランスの著名な方々、また、フランスで活躍される日本人の方々に、復興への想いをこめて絵付けをしていただくというものです。

東日本大震災から２年目にあたる 2013 年３月１１日にフランスのリヨン市庁舎で最初の展示会が開催され、その後、イタリア、ウクライナほか、世界中で企画展覧会が行われました。

2014 年からは日本漫画家協会もこのプロジェクトに参加し、「銀河鉄道９９９」の松本零士さん、「ゴルゴ１３」のさいとうたかをさん、「あしたのジョー」のちばてつやさん、そして、「ルパン三世」の故モンキーパンチさんなどの漫画家が手がけた「まんがこぼし」も多数展示されています。日本でも広島、東京、長崎、京都、福岡を巡回し、昨年１１月～１２月にかけて、東北ではじめて、伊達市の梁川美術館で開催されました。

その展覧会を訪れた私の感想を一言でいうとすれば、「圧巻」です。世界中の人々の被災地への想い、平和と復興の願いが込められて描かれた小法師一つひとつにとてつもないパワーを感じました。

新しい年がはじまって１週間。今年はたくさんの失敗をしませんか。ただし、そのたびに、失敗を学びに変えて、立ち上がりましょう。「七転八起」の精神で、何度転んでも、泣きながらでもいいから、立ち上がりましょう。

１回目の転倒から立ち上がったときよりも、２回目の転倒から立ち上がったときの方がより強くなるはずです。レベル１がレベル２になるイメージです。経験値を重ねてレベルが上がっていくロールプレイングゲームのリアル版こそ、君たちの人生そのものです。

私が初詣で願ってきたことは、「皆さんがたくさんつまずいて、転んで、その度に立ち上がって成長できる１年でありますように」です。そういえば、学年通信のタイトルは久保田先生発案の「七転八起」でしたね。前述したような願いが込められた学年通信です。今年もよろしく。